



◎内子東自治センターで稽古に励む河田さん(左)と作田さん。鋭い蹴りや突きを次々と繰り出していた

日々の鍛錬が実を結び、つかんだ全国優勝 内子空手同好会から2年連続の快挙

河田 掲志さん(天神小4年)=駄場=、作田 賢哉さん(大洲高2年)=田中=

冷え込む1月上旬、内子空手同好会の皆さんの素足で床を踏む音と、「押忍」の聲が稽古場に響きます。仲間と稽古に励むのは、作田賢哉さんと河田掲志さん。作田さんは第18回全日本極真空手道選手権大会(極真会館水口派主催)の型競技・高校生で、河田さんは同19回大会の小学生の部で、優勝に輝いた実力者です。小学1年生から空手を始めた二人は、どちらも今回が初の全国優勝。大会について作田さんは「週2回の限られた稽古時間の中で、やってきた実力はしっかり出せた」と手応えを口にする。昨年に続き2度目の全国大会だった河田さんは「去年は悔しい初戦敗退。緊張したけれど、両親も見えてくれている中で優勝できてうれしい」と笑顔を見せます。

鍛錬の日々を振り返り、作田さんは「続けるうちに体力がつき、持病のぜんそくも改善。小さなことで折れない心も身に付いた」と話し、河田さんは「難しいけれど、新しい技を教わってできることが増える」と楽しい」とにっこり。指導する師範の吉村秀則さんは「どちらもスピードがある選手。掲志くんは覚えが早く、賢哉くんはパワーも付いてきた。さらに鍛えて上を目指してほしい」と期待を寄せていました。

編集 幸記

▽大学以来、約20年ぶりにスノボをしました。小学2年の息子がスキーで、滑るのを見ながら、恐る恐るやってみると——意外にイケた。やればできるもんです。でも一週間が過ぎても体の痛みは取れません(史)

▽友人の誘いで、愛媛大学交響楽団の演奏会に行きました。本格的な管弦楽を聴くのは初めて。繊細な動きが組み合わさることで成る一つの大きな音楽は圧巻でした。しかも演者はほぼ同世代……。私も極めようかな、リコーダーとか(花)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

